

令和5年度 和田まちづくりセンターの主な取組

事業名

フリースロー大会

P

●事業実施に至った背景、目的

- ・旭中学校の男子運動部はバスケット部しかなく、小学生からミニバスを習う子どもが多くいる。発表の場を作ることで、今後の練習意欲への高まりと、生涯学習につながる。
- ・小学生低学年の部（1年～3年）、高学年の部（4年～6年）、中学・高校の部とクラス別に分かれて行うが、大会を通して、世代を超えた地域交流の場ができる。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

和田まちづくりセンター運営推進委員会、和田地区まちづくり推進委員会（健康スポーツ部会）、旭中学校、旭バスケットクラブ代表と打ち合わせ。

D

●事業の概要

※和田まちづくりセンターは旧和田小学校閉校後の建物を使用。

- ・旧和田小学校の閉校記念で建てたバスケットゴールが破損し、地域住民から新しいバスケットゴールを作ってほしいとの要望が多くあった。
- ・地域の声をまちづくり推進委員会（総務企画部会の会議）で議題に上げ、検討を重ねた。
- ・まちづくり推進委員会が設置した、バスケットコートのお披露目を兼ねて、まちづくりセンターがフリースロー大会を開催。
- ・地域住民（まちづくり運営推進委員会、健康スポーツ部会）が進行や審判などを行うことで、まちづくり活動に関わる人が増え、住民主体で事業に取り組むことができた。

C

●事業実施後の振り返り

- ・「頑張る子ども達の真剣勝負が見られて、良かった」と地域の方から好評だった。
- ・審判を担当した、旭バスケットクラブコーチの子ども達への指導や声掛けがとても上手だった。
- ・（予選会を行い、上位3名が決勝進出）予選敗退者は物足りなかったのではないかな？ 今後は敗者復活戦などを考える。

A

●令和6年度以降の方向性

- ・来年度は、まちづくり推進委員会（健康スポーツ部会）が引き継ぎ、継続事業として行うことが決定した。
- ・今回、高校生が部活と重なり不参加になった。HAMADA 教育魅力化コンソーシアム（学校と地域の連携・協働）を利用し、計画段階から加わってもらうことで、高校の理解を得ていきたい。

